

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第228号 2011年4月6日

OCHADAI GAZETTE April, 2011



激動する社会状況、一人一人が「要」になる

CONTENTS

TOPICS

学長からのメッセージ・・・・・・・・・・	1	学生のアクティビティ・・・・・・・・・・	6
名誉博士称号授与式・講演会・・・・・・・・	2	附属学校園からのお知らせ・・・・・・・・	7-8
平成22年度卒業式 学長告辞・・・・・・・・	3-4	メディア報道記録／ 研究表彰等受賞者一覧／	
教員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5	イベントカレンダー・・・・・・・・・・	9-10
由良敬先生 (大学院人間文化創成科学研究科先端融合系)			



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長からのメッセージ

この春また多くの新生をこのキャンパスにお迎えしました。大学では、約500名の学部生と300名の大学院生が、そして、附属学校園にはおよそ400名が入学しました。

皆様のご入学を心から歓迎いたします。

今年、お茶の水女子大学では「大学憲章」を定めました。この憲章は、136年の歴史を踏まえ、附属学校園を含めて本学が目指すべき普遍的な方向性を示したものです。

明治8年(1875年)に本学の前身である東京女子師範学校が設置されて以来、本学は社会の様々な分野に優れた女性を送り出し、歴代の卒業生たちはいずれも、その分野での先達となって社会の発展に大きく寄与しました。本学が高等教育機関として極めて高く評価されてきたのはそれゆえです。この貴重な伝統を自覚しつつ、現在の社会状況の中で果たすべき教育研究機関の役割と大学のあるべき姿について議論を重ね、大学憲章を策定しました。この憲章を基に、今後いっそう社会の知的基盤の向上と発展に全学を挙げて努力してゆきたいと考えています。

歴史的にも、そして女性の活躍が社会的課題となっている現在においてはとくに、お茶の水女子大学の重要な使命は女性リーダーの育成にあります。「リーダー」は組織の責任者として理念を示し、組織を導き、その発展を促す役割を担う者を意味します。しかし、リーダーシップ

を発揮する手法は多様にあり、同時にリーダーの姿も様々に考えられます。リーダーは単に組織の「長」という「位置」を意味するのではなく、むしろ「要」となりうることはないかと私は考えています。人と人とを結びつけ、あるいは組織と組織とが関わる「要」となる役割がリーダーには求められるのであり、従って、それぞれの立場でリーダーシップの発揮の仕方があると思われれます。そのためには、多元的な思考力と豊かな想像力、そして主体性が重要です。

そこで、今年度からは、学生が自らの関心に沿って主体的に履修プログラムを選択し、専門的な能力と関連分野の知識を習得する学士課程教育プログラムを開始することにしました。すでに平成20年から開始している「文理融合21世紀型リベラルアーツ」にこの履修制度が加わることによって、学生が新たな途を自ら切り拓く力を身に付け、激動する社会状況にあって多様に力を発揮することを期待しています。

お茶の水女子大学は、教育においても研究においても多様性と主体性を重視し、真に社会に貢献しうる人間の育成に努めてまいります。

これからも皆様のご支援とご指導を賜りたくお願い申し上げます。

2011年4月 お茶の水女子大学長

羽入佐和子

名誉博士称号授与式・講演会

本学よりミリアム・ウエレ博士に名誉博士称号授与



2月21日、本学において、ミリアム・ウエレ博士に名誉博士称号を授与し、記念講演会を開催しました。本学では、2002年にアフガニスタン復興支援として行なわれた女子教育支援をきっかけに、アジアやアフリカ地域をも視野に入れて、女性と子どもに関わる平和構築のための支援活動に取り組んでいます。今回の名誉博士称号は、ウエレ博士の業績、社会活動への貢献を讃え、本学の活動の一つのモデルとして顕彰しました。

ウエレ博士は、長年にわたりケニアを中心としたアフリカ地域における保健医療活動や青少年活動に精力的に取り組み、それらの偉大な功績によって、2008年に日本政府によるアフリカでの医学分野の最高の賞である、野口英世アフリカ医学賞を受賞されました。

アメリカ留学で博士の学位を取得後、ナイロビ大学医学部教授地域保健学科長としてケニアをはじめとするサブサハラアフリカの医学教育に大きく貢献され、特にウエレ博士が理事長を務める African Medical and

Research Foundation は、遠隔地の病人への緊急搬送を行うフライングドクターシステムを実践しています。ウジマ財団の理事長としても、ナイロビのスラムであるキベラ地区を中心とした青少年活動の場を作り、青少年自身による麻薬依存に対する予防・更生活動を通じて、キベラ地区の麻薬使用率の減少に貢献しました。また、ケニアの HIV/AIDS に対する活動の責任者としての活動も高く評価されています。

授与式後は、本学グローバル協力センターが実施している「グローバル社会における平和構築のネットワーク形成」事業の一環として、記念講演会「共に生きる—ミリアム・ウエレ博士に聞く」が開催されました。ウエレ博士からは、紛争の多いアフリカの平和を実現するために、コミュニティや市民の連帯を通じた、日本をはじめとするグローバルなネットワークの構築が不可欠であることが講演されました。学生からは女性としての役割、コミュニティからの活動の重要性等に関する数々の質問がなされ、活発な議論が行われました。最後には、ウエレ博士とともに参加者が立ち上がり、手拍子をしながらケニアの歌を歌いながら締めくくられました。「共に生きる」社会の実現の第一歩として、アフリカと日本の間の温かい連帯を感じさせる講演会となりました。

今回のウエレ博士への称号授与を、本学のさらなる国際協力活動の発展の礎としたいと思います。



平成 22 年度卒業式 学長告辞

「知を力に 智慧を勇氣に 心を寛く」

大きな災害の中で卒業の時を迎えました。

犠牲になられた多くの方々に謹んで哀悼の意を表し、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

被災地が一日も早く復興し、さらに、この国が真に豊かな国として、これまで以上に国際社会で確かな役割を果たす国となることを願い、お茶の水女子大学として出来るだけの努力をしてまいりたいと思います。卒業生、修了生の皆様には、この大学で学んだ全てを宝とし、糧として、それぞれの立場でなすべきこと、できることを熟慮し、その実現に全力を尽くすことを期待しています。

この3月には学部生536名、大学院生304名がこの学び舎を巣立ちます。学生の皆様には、それぞれの日々を確実に過ごし、所定の課程を修められた努力を讃え、また、学生がこの日を迎えられたことに対して、ご家族や周囲の皆様のご協力を深く感謝申し上げます。

お茶の水女子大学は、1875年(明治8年)に、御茶ノ水(現文京区湯島)の地に設置された国立の東京女子師範学校を前身としています。現在は東京医科歯科大学があるところですが、

ここには今でも、「女子教育発祥の地」と記された碑があります。本学がその御茶ノ水から大塚に移転したのは、1923年(大正12年)の関東大震災によって校舎が全壊したことによるものです。その後、他の施設に分散するなどして授業を継続し、1932年(昭和7年)にこの地に大学本館と徽音堂が竣工しました。

こうしたことから、新たに建設された大学本館は耐震への配慮がなされるとともに、優れた女性を国家が育成するという強い期待の現れとして、本館入口には上質の大理石が使用されました。これを始めとして、この大学に寄せられた大きな期待の証は今も随所に残されています。

このような歴史を歩みながら本学は、高等教育機関として最高の知を学生に教授してきました。「知は力である」ともいわれるように、学生の皆様がこの大学で学んだ知識は必ずや世界を拓く大きな力となるはずで

その力を育成するために2008(平成20)年度から「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」を開始しました。皆様の中にもこの授業を履修された方が多くいらっしゃると思います。私たちが日々直面する課題を解決するためには、文系と理系を





横断するような専門的知識と広い視点が必要です。新たなリベラルアーツ教育の科目は、この観点から設置されました。かつて、大学院の博士後期課程が新設された時の理念も、既存の専門領域を超えて学際的な視点から新たな学問分野を構築することでした。さらに遡れば、女子高等師範学校の時代から学生は教科の区別なく修学することが求められていました。本学ではつねに、問題解決を主眼として、領域を超えうる専門性を追求してきたのです。それは、学生にとって専門的な知識の獲得に加えて、柔軟に判断するための智慧を培う素地ともなっていることと思います。

人は常に何らかの状況の中で生きています。その状況に対して、私たちは「知を力とし」ながら、「智慧を勇氣に」変えて立ち向かうことが求められているような気がします。そして、この大学で学んだ学生の皆様はその能力をそれぞれに身に付けていることを確信しています。

今回、まったく予期しない状況を経験して、ともすると私たちは寛容さを忘れがちになることにも気付きました。人を非難し、あるいはその行動を否定することによって自らの安らぎと正当性を得ようとするのは、ニーチェが「ルサンチマン」と批判した考え方に通じるかもしれません。「心を寛く」保ち、寛容であろうとすることも、そのような状況の中で心がけなくてはならないことと自戒しています。

未曾有の災害に見舞われた今、私たちはこの大学で培った全てを駆使し、自らが自律して社会の復興に心を傾けたいと思います。

今年度は、卒業式と学位記授与式を通常の形式で行うことは叶いませんでしたが、皆様とこの学び舎で過ごした時間を大切に思い、皆様のこれからのご活躍を期待する気持にはいつもまして強いものがあります。

いま新たな一步を踏み出す皆様には、この大学で得た知を力とし、智慧を勇氣にかえて、心を寛くもって、事に立ち向かっていただきたいと思います。

ご卒業、学位取得を心からお祝い申し上げ、皆様のこれからの未来が、豊かで輝かしいものでありますようにお祈りいたします。

平成 23 年 3 月 23 日

お茶の水女子大学長
羽入 佐和子



教員紹介

ご自身の研究や教育観を語っていただく「教員紹介」。今回は大学院人間文化創成科学研究科教授の、由良敬先生にお話を伺います。

由良先生は、3年前に本学に着任され、生命情報学教育研究センター長もされています。学部では理学部生物学科、大学院ではライフサイエンス専攻にご所属で、生命情報学、計算生物学などを講じていらっしゃいます。

先生のご専門について教えてください。

私の専門は、物質をどのように使うことで生命が形成されているかを解析することです。最も興味を持っているのがタンパク質の形です。タンパク質は40億年ぐらしかけて変化してきたのですが、その過程でどのようにして今のようなタンパク質の形ができたのか、どのようにして金属やビタミン、RNAなどと結合するようになったのかを研究しています。

タンパク質の進化ということでしょうか。

そうです。例えば、約5億年前に存在していたタンパク質をコンピュータの中で復活させるという研究をしています。このタンパク質は、現在は存在しないタンパク質ですが、アミノ酸（タンパク質の構成部品）のどのような配列を持っていて、どのような立体構造をしていたかを予測しています。

具体的にはどのように予測するのですか。

そのタンパク質を持っていた生物の末裔にあたるたくさんの方の現存生物は、当然ながらそのタンパク質の末裔を持っています。それら現存のタンパク質の情報を手元のコンピュータに集めて、構造を比較すると過去のことがわかってきます。すべてのタンパク質において共通の部分があったら、その部分は5億年前から変化してないだろうと考えることができます。また多くのタンパク質で変わっている部分は、元々はこんな形だっただろうと変化をさかのぼっていきます。さかのぼるためには、ヒトが持っている末裔のタンパク質やマウスが持っている末裔のタンパク質などのアミノ酸配列を比較して、タンパク質の樹形図（系統樹）を作ります。そして、系統樹の分岐点でどのような変化が起こったかを予想するのです。そうすると、大昔のタンパク質のアミノ酸配列を推定することができ、さらにそのタンパク質の形（三次元構造）が推定できるのです。

5億年前のタンパク質の形がわかるというのは面白いですね。

タンパク質の進化のメカニズムを研究していくと、タンパク質がこれからどのようにしていくのを知ったり、今まで存在しなかった新しいタンパク質を創りだしたりす



Kei Yura
由良 敬

理系と文系の垣根も
越えてほしいですね。

ることもできると考えています。特定の化学反応を触媒する新しい酵素をつくるなど、面白いと思っています。

他にどのようなご研究をされているのですか。

タンパク質の形に関する研究では、タンパク質の三次元構造を予測する方法も研究しています。また、タンパク質の三次元構造を利用して、タンパク質がどのようなDNAの塩基配列に結合するかとか、ATPやGTPに結合するタンパク質がどのように結合しているかなどを予測しています。

私の研究室は卒業研究生受入にあたって、他学科にも門戸を開いています。平成22年度は、生物学科からは3名、情報科学科からは2名配属されています。3年前に着任して、22年度から4年生が研究室に来てくれるようになりました。お話しした研究は生物学科の学生の研究です。情報科学科の学生は、もう少し情報解析的な研究をしています。ものすごく放射線に強いバクテリアがいるのですが、なぜ強いのかを知るために、ゲノム情報の新しい解析方法を作ってもらったり、タンパク質三次元構造を予測する方法の基礎論をやってもらったりしています。

なぜ現在のご専門を選ばれたのでしょうか。

私はもともと早稲田大学理工学部応用物理学科の出身で、物理学を勉強していました。でも当時から、生物を構成する物質に興味があって、卒業研究の時にタンパク質を含む高分子の研究をされていた斎藤信彦教授の研究室に入りました。そこでタンパク質の形の研究を始めたのですが、実際にやり始めると、もっと生物のことを知らないといけないと感じて、大学院の博士後期課程で名古屋大学大学院理学研究科生物学専攻に異動しました。それ以来、生物学のなかでも分子進化と構造生物学の分野で研究をしています。

学生の頃もコンピュータを用いた研究だったのでしょうか。

そうです。生物学の実験はやったことがありません。ずっとコンピュータを利用した研究をしてきました。ご存知のように、コンピュータの進歩は目覚ましく、私が学部で卒業研究をしていた頃とは、コンピュータのスピードは雲泥の差です。私の卒業研究も、当時は半年ほどかかったのですが、今だとたぶん1日でできてしまうでしょうねえ。いろいろなことが手軽にできるようになったのはよいですが、何をするかをよく考えなければならないのは今も昔も変わりません。私自身は、気のおもむくままに面白いなあと思っただけで、勝手に手を出してしまう方で、もうちょっと集中した方がよいのかな、と思っています。

先生のホームページ (<http://cib.cf.ocha>.)

ac.jp/yuralab/) はかなり充実していますが、経歴を見させていただくと、先生はロンドン生まれということですね。それで英語が堪能なのでしょうか。

4歳の頃までロンドンにいました。でも、英語は日本に来たときに一度完全に忘れてしまいました。子供の頃ですから。ただ、その後も語学は好きだったので、高校生と大学生の頃はESSに入っていて、英語スピーチコンテストや演劇、ディベートをしていました。

その経験は研究に役立っていますか？

役立っていると思います。ディベートをやったためだと思っていますが、言おうと思ったことは言う（言ってしまう）癖ができました。多少押しが強くなったのでしょねえ。演劇などではとにかく台詞を話さなければならぬので、その結果、物事を語る習慣がついたと思います。お茶大の学生を見てみると、皆さん英語はちゃんとできるはずなのですが、あまり話そうとしない。英語に限らず言葉というものは、とにかく話してみればよいのです。話さなければ何も始まらないと思います。

押しが強いことは研究者には必要なことですね。では、留学はどちらに行かれたのでしょうか。

留学らしい留学はする機会がありませんでした。唯一大学院博士前期課程1年のときに、チェコスロバキア（当時）のプラハ・カレル大学高エネルギー研究所に3ヶ月程度滞りました。加速器の設計に関する研究をしていました。でも本当は当時の東ヨーロッパが見てみたいくて、それでIAESTEに応募したのです。IAESTEでは国際インターンシップ生を募集しています。派遣先で研究活動ができるとは限らないのですが、研究所に配属されると研究に近いことができます。ちょうどベルリンの壁が崩壊する1年前でしたので、いろいろと貴重な経験をしました。

最後にお茶大生にメッセージをお願いします。

学生の間に外国を見てきてほしいですね。遊びで行くのもよいですが、たとえ短期間でも海外の研究所とか企業とかに行くと、世界を見る目が変わってきます。それと、学生の間にもっとどんな欲にいろいろ分野のことを勉強したり、体験したりしてほしいです。1つの分野に閉じてもっているのは、面白いことはできません。現在の理系は、物理学、化学、数学、生物学などに細分化されていますが、自然は本来ひとつですから、これらの分野を融合した感覚を持って自然を眺めるのもいいのではないかと考えています。理系と文系の垣根も越えてほしいですね。ぜひ、いろいろなことにチャレンジしてください。

本日はどうもありがとうございました。

文責：棚谷 綾
(大学院人間文化創成科学研究科先端融合系 准教授)

学生のアクティビティ

お茶大には、全部で45団体もの公認活動団体(文化系27団体、体育系18団体)があります。また、下に示したものの以外にも、多くのサークルや非公認の団体があります。

文化系

- ギター部
- オレンジマニア
- 箏曲部
- 白ばら会合唱団
- Ochas
- 表千家茶道部
- 裏千家茶道部
- SF研究会
- 劇工舎プリズム
- 考古学研究会
- 小原流華道部
- 囲碁部
- 緑会合唱団
- 文芸集団 青い花
- 百人一首同好会
- 日本舞踊研習班
- 国際インターシップ サポートサークル
- ミュージカルカンパニー MMG

- しいのみ子ども会
- 美術部
- 写真部
- 漫画研究会
- E・S・S
- 狂言研究会
- 氷川下子供会
- ピアノ班
- お茶の水管弦楽団

体育系

- バレーボール部
- バスケットボール部
- 硬式庭球部
- モダンダンス部
- 剣道部
- フィギュアスケート部
- バドミントン部
- 弓道部
- サイクリング部
- アーチェリー部
- TECK TECK
- 民族舞踊研究会
- 山岳愛好会「雷鳥」
- 合気道部
- 空手部
- LBJ スキーチーム
- ジャズダンスサークル・flow
- 陸上競技部

今回数ある団体のうちのいくつかを取り上げて、本ページでご紹介したいと思います。



ガイドの様子

E・S・S(English Speaking Society)

は大学内では週二回、テーマを決めてそれに関する話を英語で行っています。テーマは、死刑や環境問題、鑑賞した映画などさまざまです。週末には他



E・S・Sメンバー

大学のE・S・Sの主催するディスカッションの大会に参加することや、明治神宮や浅草で外国の方を案内するといった活動も行っています。2010年には6月に東京医科歯科大学と

早稲田大学理工学部と共に、11月にはお茶大内部でディスカッションを行いました。Welcomeな雰囲気、英語ができなくても心配ありません。他サークルと掛け持ちも可能で、自分の都合に合わせて参加することができます。
「大学に入ると英語に触れる機会が減ると思います。もし英語を使う機会がほしかったり、英語力を上げたいと思ったり、英語に興味があったりする方は、ぜひE・S・Sに来てください。学内の交流も広がるし、他大学との交流もできます。」

ギター部は週一回、課外活動共用施設(新サークル棟)2Fにて活動しています。部員には音楽、ギター共に初心者が多いですが、先輩方や講師の方がご指導くださいます。同時にお茶大の中に部室があり、好きな時に個人で練習できること、時間に余裕があるので他のサークルなどと掛け持ちできることが魅力です。普段はクラシックギターの曲や、部室や他大学にある楽譜を使って練習している人が多く、映画音楽やユーミンの曲を練習してい



ジョイントコンサートメンバーによるスキー合宿での記念写真



練習風景

ところ大きな魅力です。バスケット以外にも事務仕事なども多く、社会人になる上でも良い経験になると思います。楽しいときは楽しく、しっかりやる時にはしっかり活動していて、けじめがきちりしています。徽音祭では毎年焼きそばを売っているのですが、大変売れゆきがよく部費が稼げるのでその分お金が浮きます(笑)

「初心者も経験者も大、大、大歓迎です!学生でスポーツができる最後の機会なので、私たちと一緒にバスケットをしませんか?」
 ※年間試合スケジュール4月国公立戦/5月選手権大会/4~5月Iris League/9月リーグ戦/11月四女子大学定期戦/3月奈良女子大学交流戦 その他練習試合多数

文責：清野真理子(学生団体D-cha新聞部2年)

る人もいます。東京工業大学、東京理科大学、早稲田大学とのジョイントコンサートを行っています。

「気軽に本格的にできる音楽サークルなので、よければどうぞ!」

バスケットボール部は週四回お茶大の体育館で活動しています。部員には初心者が多く、先輩は優しく面白い人が多いです。先輩後輩の壁もなく、バスケの技術だけではなく、人間的にも成長できる



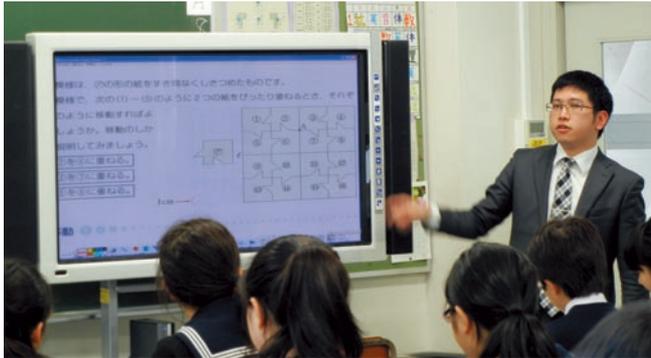
練習風景

附属学校園からのお知らせ

附属中学校便り

「特色ある教育課程・授業の工夫」

このたびは初めての本誌掲載なので、附属中学校の紹介と取組も述べてさせていただきます。中学校入り口に建っている、創立50周年記念碑にある「自主自律」「広い視野」は、本校の教育目標「自主自律の精神を持ち、広い視野に立って行動する生徒を育成する」からキーワードをぬき出したものです。この目標をめざ



電子黒板を使っでの授業

して約400名の生徒も教員も学習や教育活動に取り組んでいます。授業の取組の中で特徴的なものをご紹介します。わかりやすい授業の工夫として、様々な取組をしていますが、電子黒板などを使っでの授業などを積極的に進めています。デジタル教科書を利用したり、動きがあるものをインタラクティブに見せることができ、生徒の理解を助けています。また、3・4人の小グループでの学習活動も取り入れ、生徒が自分たちでディスカッションしながら、様々な問題を考えたり、自分のアイデアを出し合って評価し合うなど、授業に積極的に取り組めるようにしています。

「特別時間割期間の設定」

通常の授業時間割の枠をはずして特別な時間割で学習期間を設定しています。平成22年度は1月下旬に1週間実施しまし



小グループでの学習活動



た。教科学習だけでなく、テーマを設定し、外部の講師の方にもお願いし、いつもとは違った雰囲気での授業参加でした。2年生では、動物と人間の良好な関係を築くための学習をしました。実際に教室にイヌを連れてきて、生徒が実習するような授業でした。動物と接するときのマナーがあることを知って生徒もかなり参考になったようです。写真のように、飼い主とイヌへの挨拶のしかたや、手のさしのべ方などを学んだ後に実際にイヌと接して、楽しみながら学ぶことができました。

本校の特色「自主研究」

中学1年生の後期から2年間にわたり、「生徒自身の力で課題を見つけ、研究計画を立て、追究し、まとめる」という研究活動の時間を「自主研究」と称し、教育課程に位置づけています。30年以上にわたって様々な手立てを施しながら継続し、平成21年度からは3年間にわたり文部科学省の研究開発学校の指定を受け、「自主研究」を中心に全学的に研究に取り組んでいます。テーマを自分で設定し、計画を立て研究を進め、まとめます。1年生の終わり、2年生の終わりにはそれまでの研究を学年の中で発表し、3年生では大学講堂で全校生徒の前で各グループの代表者が発表します。テーマ区分には「芸術と人間」、「言語と記号」などの大きなものがあり、個人の課題はその中に分類されますが、個人の研究課題には「理想の歌声に近づく」、「若者言葉と流行語を究める」などから、「焼きぎょうざ～おいしい!! までの道のり～」「ヨーヨーのすべて」などといったものまであります。生徒は毎回自分で探究する時間を与えられて、楽しく取り組んでいます。また、この時間には同窓会としてOBの方々ボランティアでアドバイザーとして関わってくださっています。

2年生は全員が、体育館アリーナでパネルに自分の研究内容を貼り、2回の入替え制で15分間で説明と質疑応答を行います。



1年生がパワーポイントを使っでの発表



2年生の体育館でのポスターセッションの様子



ポスターセッションの説明風景

自分たちの仲間の発表を詳しく聞く機会になり、発表者も聞き手も納得しながら進めていました。1年生は、グループの代表が10分程度で発表と質疑を行い、合わせて6回の「講演」を行います。みんなの前で模造紙やプレゼンテーションソフトなどを使って、発表する際には多少緊張も見られましたが、よい雰囲気の中での発表でした。このような経験は、探究する力をつけ、これからの生活の中で必ず役に立つものであると考えています。

附属学校園での出来事（2011年2月～3月）

【いずみナーサリー】

2月

- ・理学部
「企画・運営力養成講座」の授業
- ・第2回公開保育講座
「ワークショップ・赤ちゃん（乳幼児）と大人が一緒に育つ遊びアート」
八木紘一郎氏
- ・保護者会
- ・学生ボランティアによる楽器演奏
- ・ひなまつり
- ・Ochas学生とおにぎりの「お雑様作り」

【附属幼稚園】

2月

- ・誕生会
- ・5歳親子で遊ぶ日
- ・4歳保護者対象子育て懇談会
講師：藤江由美先生
（スクールカウンセラー）

3月

- ・誕生会
- ・ひなまつり
- ・PTA 総会、全体保護者会
- ・お楽しみ会
- ・卒業式

【附属小学校】

2月

- ・公開研究会
- ・6年雪の学校

3月

- ・5年じゃがいも植え
- ・授業参観、保護者総会、かがみ会総会
- ・5・6年生委員会活動
- ・6年生を送る会
- ・卒業式
- ・修了式

【附属中学校】

2月

- ・後期期末テスト
- ・3年保護者会

3月

- ・2年郊外園
- ・歓送会
- ・卒業式
- ・1・2年学力テスト、大掃除
- ・終業式、1・2年保護者会

【附属高等学校】

2月

- ・合唱コンクール
- ・入学検定
- ・合格発表
- ・新入生説明会

3月

- ・期末試験
- ・1年農場（じゃがいもの植え付け）

卒業おめでとうございます

今年もたくさんの園児・児童・生徒たちが、附属学校園を巣立っていきました。

- ・附属幼稚園 67名
- ・附属中学校 132名
- ・附属小学校 131名
- ・附属高等学校 119名

附属学校園からのお知らせ

メディア報道記録

メディア報道記録 2010年度(抜粋)

- ・2010年4月2日 読売新聞
学力考：格差の影 小中学にも
耳塚寛明理事・副学長
- ・2010年4月6日 産経新聞他
山崎直子さんスペースシャトル打ち上げ
附属高校
- ・2010年4月10日 朝日新聞
フロントランナー：画一的じゃない個性の二一三
をサポート
コラボラボ社長 横田響子さん(卒業生)
- ・2010年4月16日 日刊工業新聞
2010年4月19日 朝日新聞
予約型奨学金「みがかずば」
- ・2010年4月25日 朝日新聞
全国学力調査「抽出式」に変更
経年変化がわかる調査を
耳塚寛明理事・副学長
- ・2010年4月28日 日本経済新聞
蘇る都奈良再孝<3>
安田次郎教授
- ・2010年4月29日 毎日新聞
語る：転ばないと成長しない
外山滋比古名誉教授
- ・2010年5月23日 朝日新聞
著者に会いたい：連載執筆は楽しくて楽しくて
外山滋比古名誉教授
- ・2010年6月1日 日刊工業新聞
画像・メモ同時記録 ソフト搭載パソコン発売
刑部育子准教授
- ・2010年6月12日 読売新聞
健康プラス：夏野菜3 体を温める薬味・香味野菜
森光康次郎准教授
- ・2010年6月14日 日刊工業新聞
books：柔軟な思考の大切さ学んだ
『純粹理性批判』
羽入佐和子学長
- ・2010年6月17日 日刊工業新聞
社説：新社会人講座 教育に新風起こし元気回復を
増田優教授
- ・2010年6月18日 日刊工業新聞
教員を3年相互派遣 東工大・お茶の水女子大学
- ・2010年6月21日 日本経済新聞
地方は独自に全員式学テストを
耳塚寛明理事・副学長
- ・2010年6月29日 日刊工業新聞
メリットが大事
羽入佐和子学長
- ・2010年7月1日 読売新聞
識者に聞く参院選2010：社会保障
袖井孝子名誉教授
- ・2010年7月6日 日刊工業新聞
遺伝カウンセラー底上げ
お茶の水女子大学など9大学
- ・2010年7月12日 日本経済新聞
キャリアの軌跡：苦言役徹底、不安の芽摘み
早稲田アカデミー取締役 河野陽子さん(卒業生)
- ・2010年7月24日 読売新聞
新聞活用法：大局観養うには活字
藤原正彦名誉教授
- ・2010年8月9日 毎日新聞
夏熱い10冊：共生共存社会の原点探る
楊逸さん(卒業生)
- ・2010年8月18日 毎日新聞
新幸福論：知識や常識を疑い、
自分の世界に自信を。
外山滋比古名誉教授
- ・2010年8月20日 毎日新聞
子育て終えて最近、家事が楽しい
柴門ふみさん(卒業生)
- ・2010年8月24日 毎日新聞
増える予約型奨学金
- ・2010年8月24日 中日新聞
学生街(ガイ)ダンス：着ぐるみで出前授業
食育サークル「Ochas」
- ・2010年9月4日 東京新聞
「卑怯は恥」ずっと心に
藤原正彦名誉教授
- ・2010年9月4日 読売新聞
年に2~3分神になる
土屋賢二名誉教授
- ・2010年9月6日 読売新聞
月刊イベント：英語「公用語化」是か比か
藤原正彦名誉教授
- ・2010年9月10日 毎日新聞
めざせ!たくましく「理系女子」
4女子大が「サイエンスフェス」
- ・2010年9月28日 中日新聞
新鮮!薬膳でスイーツ
食育サークル「Ochas」
- ・2010年10月4日 読売新聞
月刊イベント：少子化
本田和子元学長
- ・2010年10月21日 日本経済新聞
古今和歌集の「完全版」漢字・仮名序文で最古
浅田徹准教授
- ・2010年10月22日 毎日新聞
キャンパス：子供料理教室で「食育」支援
食育サークル「Ochas」
- ・2010年10月25日 東京新聞
微聞積聞：科学と社会つなぐ人を
東京大学教授 黒田玲子さん(卒業生)
- ・2010年10月25日 朝日新聞
奨学金の創設広がる 給付型知恵絞る大学
- ・2010年11月2日 日刊工業新聞
連携協定一成果はいかに：小中学生に理科教育
- ・2010年11月30日 毎日新聞
キャンパスウォークこれが評判!：お茶大グッズ
- ・2010年12月8日 読売新聞、東京新聞
日本の15歳国際学力調査
耳塚寛明理事・副学長
- ・2010年12月17日 朝日新聞
週刊首都圏：宗教に共鳴する女性たち
波平恵美子名誉教授
- ・2010年12月20日 日本経済新聞
指導力・ノウハウ蓄積課題
高学力への道、独自に模索
耳塚寛明理事・副学長
- ・2010年12月21日 読売新聞
熱い科学 寒い政
藤原正彦名誉教授
- ・2010年12月23日 読売新聞
大学の實力：転機のAO
- ・2011年1月21日 朝日新聞
失われゆくネパールの伝承舞踊
無形遺産守る援助を
民族舞踊研究者 一柳子子さん(卒業生)
- ・2011年1月28日 東京新聞
放射線：フレデリック追想
名古屋大学教授 森郁恵さん(卒業生)
- ・2011年2月3日 東京新聞
「新お茶大グッズ」好評
- ・2011年2月28日 読売新聞
不正防止大学動く 入試問題投稿
- ・2011年3月10日 日本経済新聞
新指導要領 公立校「授業時間増やす」
耳塚寛明理事・副学長
- ・2011年3月11日 日刊工業新聞
産学連携へ相互補充
電通大 TLOと産業ニーズを探る
- ・2011年3月24日 日刊工業新聞
被災大学に物資搬送
- ・2011年3月25日 読売新聞
卒業式の中止、簡素化広がる

研究表彰等受賞者一覧 2010年度(抜粋)

(1) 教職員

- 平成 22 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰
(若手科学者賞)
大学院人間文化創成科学研究科 棚谷綾准教授
- 第 32 回日本臨床栄養学会総会・第 31 回日本臨床栄養協会総会、第 8 回大連合大会
若手奨励賞優秀論文賞
生活環境教育研究センター
岸本良美研究機関研究員
- 2010 年度第 15 回安藤百福賞
優秀賞
大学院人間文化創成科学研究科 村田容常教授
- ベトナム保健大臣賞
大学院人間文化創成科学研究科 山本茂教授
- 平成 22 年度文部科学大臣優秀教員
附属小学校 神戸佳子教諭

(2) 学生

- DICOMO2010
優秀プレゼンテーション賞
大学院理学専攻 豊島詩織さん
大学院理学専攻 百瀬明日香さん
- 財団法人東海ジェンダー研究所
第 14 回個人研究助成費採択
大学院比較社会文化学専攻 武内佳代さん
- 第 23 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル NHK 賞
文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学コース

・第 34 回日本遺伝カウンセリング学会
学術集会優秀賞
大学院ライフサイエンス専攻 三澤未来さん

・第 18 回国際学生対抗バーチャルリアリティ
コンテスト
未来観客賞
大学院理学専攻 佐藤彩夏さん
大学院理学専攻 横窪安奈さん

・第 35 回日本医用マンスペクトル学会
ベストポスター賞
大学院ライフサイエンス専攻 橋本由佳さん

・8th International Symposium on
Membranomics
Best Poster Award
大学院ライフサイエンス専攻 秋山央子さん

・第 8 回日韓微小重力科学ワークショップ
パラボリックフライト賞
大学院理学専攻 藤田彩さん

・エンタテインメントコンピューティング 2010
カンテレー賞
大学院理学専攻 中森玲奈さん

・暁烏敏(あけがらすはや)賞
大学院比較社会文化学専攻 鈴木朋子さん

・第 17 回日本未病システム学会学術総会
研究奨励賞
大学院ライフサイエンス専攻 竹中香織さん

・第 4 回赤松良子ユース賞
大学院ジェンダー学際研究専攻 長田華子さん

・第 8 回 QoS ワークショップ
優秀ポスター賞
大学院理学専攻 安藤玲奈さん

・Joint 5th International Conference on Soft
Computing and Intelligent Systems
and 11th International Symposium on
Advanced Intelligent Systems
Young Researcher Award of IEEE CIS
Japan Chapter
大学院理学専攻 梅澤香矢乃さん

・独立行政法人情報処理推進機構
「未踏 IT 人材発掘・育成事業の未踏コース」
採択
大学院理学専攻 横窪安奈さん

・(社)情報処理学会第 73 回全国大会
学生奨励賞
大学院理学専攻 豊島詩織さん
大学院理学専攻 遠藤友美さん
理学部情報科学科 緒方亜衣さん
理学部情報科学科 北島理沙さん
理学部情報科学科 山下暁香さん

(3) 本学出身者

・トヨタコレオグラフィアワード 2010
次代を担う振付家賞
舞踊教育学コース卒業 古家優里さん

・2010 年日本労働社会学会
奨励賞(著書の部)
大学院比較社会文化学専攻修了、
元本学文教育学部非常勤講師
渡邊めぐみさん

イベントカレンダー 2011年度

4月 6日	入学式	11月 10日	文教育学部・生活科学部編入学合格発表
4月 7日	新入生オリエンテーション(～11日) TOEIC 試験	11月 12日	徽音祭(～13日)
4月 8日	新入生セミナー(～9日)	11月 22日	永年勤続表彰式
4月 13日	前学期授業開始	11月 25日	奨学金授与式
4月 23日	大学院オープンキャンパス	11月 26日	推薦入試等(～27日)
5月 18日	名誉教授称号授与式 名誉教授懇談会	12月 8日	推薦入試等合格発表
5月 31日	開学記念日	12月 27日	冬期休業開始
6月 29日	理学部編入学試験(～30日)	2012 年	
7月 7日	理学部編入学試験合格発表	1月 4日	新年賀詞交歓会 冬期休業終了
8月 3日	前学期末試験・補講日(～9日)	1月 14日	大学入試センター試験(～15日)
8月 10日	夏期休業開始	1月 21日	大学入試センター試験(追試)(～22日)
8月 12日	夏季一斉休業(～16日)	2月 1日	博士前期課程2月入試(～2日)
8月 25日	博士前期課程8月入試(～26日)	2月 6日	後学期末試験・補講日(～10日)
9月 2日	博士前期課程入試合格発表	2月 9日	博士前期課程入試合格発表
9月 8日	博士後期課程9月入試(～9日)	2月 13日	TOEIC 試験
9月 16日	博士後期課程入試合格発表	2月 25日	学部入試(前期日程)(～26日)
9月 30日	9月卒業式 夏期休業終了	3月 2日	博士後期課程3月入試(～4日)
10月 3日	10月入学式 後学期授業開始	3月 7日	全学送別会
10月 5日	AO 入試1次合格発表	3月 8日	学部入試(前期日程)合格発表
10月 8日	文教育学部・生活科学部編入学1次試験	3月 9日	博士後期課程入試合格発表
10月 19日	文教育学部・生活科学部編入学1次試験合格発表	3月 12日	学部入試(後期日程)
10月 21日	AO 入試(～22日)	3月 20日	学部入試(後期日程)合格発表
10月 26日	AO 入試合格発表	3月 23日	卒業式
11月 2日	文教育学部・生活科学部編入学2次試験	3月 26日	永年勤続表彰式

※状況により変更する場合があります



表紙：大学本館中庭 桜
裏表紙：平成 22 年度卒業式

お茶の水女子大学学报 第 228 号

▽発行日：2011 年 4 月 6 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒 112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail : info@cc.ocha.ac.jp

URL : <http://www.ocha.ac.jp/>

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、本学ホームページにも掲載しています。バックナンバーも掲載していますので、どうぞご覧ください。